

## 7月 定例教育委員会会議録

- |   |       |   |
|---|-------|---|
| 1 | 日 時   | 令和3年7月27日(火) 午後5時30分から午後6時20分まで   |
| 2 | 会 場   | 磐田市役所 西庁舎3階 特別会議室   |
| 3 | 出席者   | 村松啓至教育長<br>青島美子委員、秋元富敏委員、鈴木好美委員、大橋弘和委員  |
| 4 | 出席職員  | 市川 暁教育部長、神谷愛三郎教育総務課長、内藤弘隆学府一体校推進室長、<br>水野康代学校給食課長、吉村康宏学校教育課長、鈴木都実世中央図書館長、<br>伊東直久文化財課長、磯部公明地域づくり応援課長、<br>川島光司幼稚園保育園課長、岡本由紀子ひと・ほんの庭 にこっと館長、<br>内野恭宏放課後児童支援室長 |
|   | 傍 聴 人 | 0人  |

(進行委員：秋元富敏委員)

### 1 開会

### 2 教育長あいさつ・教育長報告

○7月定例教育委員会にお集まりいただきありがとうございます。昨日はオリンピック卓球混合ダブルスの決勝があり、水谷隼・伊藤美誠選手が念願の金メダルに輝きました。磐田出身の二人が世界一になるという快挙を成し遂げたわけですね。このような状況を、一生の中で経験できる人は少ないのではないのでしょうか。水谷選手のご両親と何回かお話をしましたが、本当に堅実で熱心な方だと思います。伊藤選手のお母さんの熱心さも含め、あの方々情熱が、今回の環境を作り出した元となっているように思います。お二人に心から「おめでとう」と申し上げたいと思います。日本人選手の活躍を更に期待したいと思います。

7月22日に磐周中学校総合体育大会が行われました。各競技の大会で中体連のスタッフが中心となり、各学校の顧問も含めてコロナ対策を十分行い、多くの子どもたちが活躍する素晴らしい大会だったと思います。

6年前にスタートした「小中一貫教育と学府一体校構想」の一番元となる考え方についてですが、大学の先生をはじめとする、10人弱のメンバーが「新時代の新たな学校づくり」という事で、答申が教育委員会へ提言されました。2年間話し合われた内容を要約すると、規模の適正化、学校の再編ではなく、22世紀に向けた新たな学校のモデルづくりという事です。つまり、地域にとってどういう学校が必要かということをお話していくということが基本的な考え方です。

話し合われた内容の中で、求める子ども像はどういうことかということ、人間的なつながりを意識し、共に生きることができる子ども、多様性に対応できるたくましさをもった子どもなどが議論されました。結論としては、22世紀に向けてこれからの50年の中で必要なものは、人と人とのつながりを深めるということです。当たり前のことだとも思いますが、実はとても大切なことだということです。それには色々な要素があり、子どものつながり、地域のつながり、教員のつながりなどがあります。

もう一つは求める学校像で、どのような学校にしていくかということです。その中で出た内容は、小中の壁を越え、人と人とのつながりを大切にしたい学校についてです。小学校と中学校の壁は何かということ、中学校の不登校が増えていることです。原因が何かを分析出来ていないところがありますが、小中学校の連携をもう少しやっていくということです。

また、地域学習・体験学習など、地域に開かれた、地域ぐるみで子どもの成長を支える学校、9年間の発達段階を考えたカリキュラムを持つ学校、学校教育のみではなく、他と連携する学校を考える中で出てきたのが、9年間のカリキュラムをもう一度作っていくということです。

もう一つのキーワードは多機能型学校です。ながふじ学府を見ていただくとわかりますが、ながふじ学府は市の図書館があり、司書の方がいて、子どもが図書館へ急いでいくという状況が見ることができます。今までの学校教育の中で、子どもたちがこのような環境で図書館を経験するという雰囲気は他に無いです。これが多機能型学校の一つの大きな効果です。特に新カリキュラムを持つ多機能型学校は、人と人とのつながりを深めるという当たり前の事ですが、そこへ焦点化させるのが重要なポイントで、これが学校づくりの基本的な考え方です。こういった中身を実現できるような学校をどのようにしていくか、ということが地域との話し合いで重要なポイントになります。それに伴い地域が変わり、教師が変わり、子どもが変わる。子どもたちの可能性を伸ばしていく学校を作っていくことだと考えています。

新時代の新たな学校づくりの次年度以降の課題は、カリキュラムを作ることです。4年前から、新しいメンバーを動員し、磐田市に合ったカリキュラムはどういうものかなどを検討しているところです。その中で、学年区分が重要になるのではないかと考えてきましたが、必ずしもそうではなく、子どもたちの発達段階などを考えると、小学校2年生までが1つの大きな区切りになるということです。幼稚園の先生と、小学校の代表の先生に集まっていただき、幼稚園から小学校2年生の8歳までで、非認知能力などを育てていくためには何が必要かということを考え、カリキュラムを1年かけて作り上げました。「たくましい磐田人を育てる」ということが新時代の新たな学校づくりの基本的な考え方です。

### 3 前回議事録の承認

6月30日定例会に関して

- ・修正の意見なし
- ・原案のとおり承認

### 4 教育部長報告

○市の全体的な動きについて紹介いたします。議会については、7月12日をもって終了し、教育委員会から上程した議案も、全て承認されています。新型コロナウイルス感染症の対応については、ワクチンの接種券を、7月21日に12歳以上の全ての市民に送付しています。現在の予約については60歳以上の方と、基礎疾患をお持ちの方に対して順次進めているところです。併せて、学校関係者の接種も順次進めています。

県全体でも感染が再拡大しています。夏休み期間中にはありますが、市内クラスターも発生するなど、今後更に注意深く対応していきたいと思えます。

<質疑・意見>

■学校関係者の接種はどのくらいで終わりますか。

□2回目の接種を概ね1か月と予想しています。

### 5 議事

なし

## 6 報告事項

### (1) 地域づくり応援課

<質疑・意見>

■川北先生の講演会はどのような内容ですか。

□川北先生は昨年12月になぎの木会館で講演会を行いました。対象は自治会の関係者が中心でした。この先生は地域づくりや地域コミュニティの方面で全国的に有名な方で、島根県雲南市を最初に、現在磐田市が行っている「地域づくり協議会」のような体制を、いち早く作り成功した方です。この方の話は、各地域の自治会ごとの人口動態を実際に数値化し、10年後、20年後にどのくらい人口が減っていくのか、高齢化がどのくらい進むのかというものを具体的に示しながら、大変分かりやすく説明してくれる先生です。今回は自治会対象にやりましたので、今回は少し若い方にも聞いてもらいたいということで、商工会議所や青年会議所などの協力をいただきながら、対象については少し若い方を中心として聞いてもらう事で企画しています。

### (2) 幼稚園保育園課

<質疑・意見>

なし

### (3) ひと・ほんの庭 にこっと

#### ・磐田市中学生スタートアップ応援事業について

○にこっとの運営や、中学生スタートアップ応援事業につきましては、ご理解ご協力をいただきありがとうございます。中学生スタートアップ応援事業も、本年度で4年目を迎えます。これまで、教育委員の皆様にも、子どもたちへの応援メッセージの直筆にご協力いただきありがとうございました。本年度は、応援メッセージの募集内容や形態について変更を考えています。

メッセージはこれまで「大丈夫、自分らしさを大切に」という、共通のメッセージを様々な方に直筆していただきましたが、3年間同じ形態で子どもたちに届けてきましたので、本年度は内容を見直し、メッセージを自由な形や言葉で募集し、今まではフォトフレームで渡してきましたが、子どもたちが身近で使用できるような文房具がいいのではないかとということで、現在下敷きを考えています。そちらに集めたメッセージを載せて、子どもたちに渡していこうと考えています。

メッセージの募集ですが、9月から10月に、にこっとと市内図書館に記載コーナーを設置し、市民からも募集していく予定です。教育委員の皆様からも、温かいメッセージを頂けたらと思います。小中学校の教職員には、今後校長会で依頼していく予定です。また、市の広報8月号に掲載し、市民に周知していく予定です。申請の受付やメッセージのお渡しは、昨年度と同様に12月からの予定を考えています。昨年度よりも更に良い事業となるようご協力をお願いしたいと思います。

<質疑・意見>

なし

### (4) 教育総務課

<質疑・意見>

○8月31日に総合教育会議があります。内容は「子どもたちに手を差し伸べていきましょう」ということで、不登校、引きこもり、1人1台のPCの活用、不登校の子と交流をするためにPCを活用することなど、学校教育課で率先して色々と進めていますので、そういうことを話題にしたい

と思います。内容が具体的に決まり次第ご連絡します。

## (5) 学校給食課

### ・令和3年度磐田市学校給食物資納入業者の追加指定について

○追加で申請されました飯田屋については、令和元年度まで登録があった納入業者です。市内の匂坂上で事業を営んでいます。主に単独調理場への納入を予定しています。この案件につきましては、7月7日に開催されました学校給食運営委員会において承認を頂いています。

<質疑・意見>

■セルフケア講座「リラクゼーションヨガ」はどのような内容ですか。

□ヨガの先生をお迎えし、調理員にヨガを実際に体験していただき、セルフで体のメンテナンスをしてもらえるようなデモンストレーションをやりながら、実際に体験してみるという企画です。調理員は仕事の腰痛持ちの方が多くいるため、そこを重点的にした内容になっており、調理員にも好評を得ているため、昨年と同じ先生をお迎えし、同じ内容でやっていきたいと思っています。

## (6) 学校教育課

<質疑・意見>

■「ふるさと教師塾」と「ふるさと礎研修会」は何が違いますか。

□「ふるさと教師塾」は、18時くらいから始まるもので、年6回実施しています。「ふるさと先生」が基本的には対象で、例年は大学生や教員を目指すような人たちも受け入れて研修会をしています。新型コロナウイルス感染症の影響により、今年は学校関係者や臨時講師、初任者などに来ていただきました。前回は採用試験の勉強会をやり、毎回テーマを決めて、学級経営・学習指導員についてなど、育成指導を中心にやっている研修です。

「ふるさと礎研修会」は、ふるさと先生と育成指導主事が訪問指導している対象の教員を集めて、2学期の心構えなどもう少し実務的な研修会です。

## (7) 中央図書館

<質疑・意見>

なし

## (8) 文化財課

○7月16日に、国の文化審議会で、「文化財保存活用地域計画」が本市も認定されました。これに関する各種マスコミ対応などをしてきました。全国24市町が認定され、その内県内では浜松市と磐田市になりますが、認定された数はトータルで47市町です。

磐田市遠江国分寺跡の整備では委員会を組織して専門的な分野、また地元の声なども反映させるという事で、委員をお願いしています。この中で、市議会の民生教育委員会の委員長と副委員長をお願いをしていますが、秋山議員、小栗議員が新たに委員長、副委員長になりましたので、新任ということでメンバーが代ります。他の方については、そのまま再任となります。

<質疑・意見>

■「文化財保存活用地域計画」が認定されたことで、今後影響が出てくることはありますか。

□重点的に取り組む地域として、見付と掛塚の2地区に関して、自治会長の会合などで説明をしています。認定されたことによる影響はすぐにはありませんが、国から示されている補助メニューの

中で、この認定を受けている自治体がエントリーできるというものが既に公表されています。今後、新たに出てくるものについては、「認定を受けているためエントリーできる」という条件が付されてくるものが増えてくると見込んでいますので、この補助メニューを有効に活用できるように、今後取り組んでいきたいと思っています。

## 7 協議事項

なし

## 8 その他

なし

## 9 次回教育委員会の日程確認

### ・定例教育委員会

日時：令和3年8月31日（火） 午後5時30分から

会場：市役所西庁舎3階 特別会議室

## 10 閉会